

ウオダス 漁海況速報 No.1411

発行日 平成 17 年 5 月 6 日 <http://www.applenet.jp/~aosui/>
 発行 青森県水産総合研究センター TEL 0173-72-2171 FAX 0173-72-2778
 住所 〒038-2731 青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字赤石字大和田39-5

5月のウオダス発行日

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

○日本海のスルメイカ漁業の現状と見通し

小 泊 (5月1～5日)

ヤリイカ	一本釣	25隻	198kg
ウスメバル	一本釣	24隻	139kg
タイ	刺網	33隻	673kg

下 前 (4月21日～5月5日)
(取りまとめ中)

鰺ヶ沢 (5月1～5日)

ヤリイカ	底曳網	2隻	739kg
サクラマス	定置網	3隻	126kg
スルメイカ	底曳網	1隻	49kg
タイ	底建網	2隻	9kg
(11 kg)	一本釣	1隻	2kg
ワラサ	定置網	1隻	13kg
フクラゲ	定置網	1隻	1kg
アブラツノザメ	底曳網	1隻	73kg

大戸瀬 (5月1～5日)

ヤリイカ	定置網	14隻	9kg
(34 kg)	底建網	32隻	25kg
タイ	定置網	10隻	57kg
(113 kg)	底建網	18隻	55.3kg
サクラマス	定置網	39隻	563kg
(610 kg)	底建網	10隻	47kg
ブリ	定置網	22隻	92kg
(98 kg)	底建網	2隻	6kg
マダラ	底建網	1隻	9kg
サバ	定置網	11隻	12kg
(18 kg)	底建網	6隻	5kg

三 厩 (5月1～5日)

ヤリイカ	定置網	78隻	327kg
サクラマス	定置網	1隻	2kg
ウスメバル	一本釣	2隻	20kg
タイ	一本釣	1隻	3kg
コウナゴ	棒受網	21隻	2,113kg

平 館 (4月26日～5月5日)
(取りまとめ中)



深 浦 (5月1～5日)

タイ	定置網	1隻	681kg
ブリ	定置網	1隻	26kg
サクラマス	定置網	1隻	7kg
(56 kg)	底建網	1隻	49kg

ツノザメ (全漁法・5月1～5日)

(日本海)	今回	前回比	漁期累計 (9月～)	去年同期比
鰺ヶ沢	73kg	521%	14,778kg	117%

尻 労 (5月1～5日)

サクラマス	定置網	7隻	447kg
ウスメバル	底建網	5隻	260kg
ヤリイカ	定置網	2隻	18kg

大 畑 (4月1日～5月5日)
(取りまとめ中)

佐 井 (4月26日～5月5日)
(取りまとめ中)

白 糠 (4月16日～5月5日)
(取りまとめ中)

八 戸 (5月1～5日)

サケ他	定置網	3隻	640kg
-----	-----	----	-------

沢 辺 (5月1～5日)

ヤリイカ	定置網	6隻	56kg
(143 kg)	底建網	12隻	87kg
サクラマス	定置網	6隻	186kg
ワラサ	定置網	3隻	22kg
タイ	定置網	3隻	216kg
(245 kg)	底建網	4隻	29kg

資源管理は、船から浜から
市場から3kg未満のミズ
ダコは放流しましょう！
青森県

主要魚種の動き

○ヤリイカ (全漁法・5月1～5日)

(日本海)	今回	前回比	漁期累計 (8月～)	去年同期比
小 泊	198kg	38%	15,292kg	94%
鰺ヶ沢	739kg	64%	259,987kg	179%
大 戸 瀬	34kg	63%	275,602kg	173%
深 浦	0kg	-	17,932kg	80%
沢 辺	143kg	181%	3,917kg	70%
(津軽海峡)				
三 厩	327kg	59%	18,539kg	147%

○サクラマス (全漁法・5月1～5日)

(日本海)	今回	前回比	漁期累計 (12月～)	去年同期比
鰺ヶ沢	126kg	86%	1,454kg	59%
大 戸 瀬	610kg	311%	18,506kg	80%
深 浦	56kg	-	5,609kg	84%
(津軽海峡)				
三 厩	2kg	-	225kg	51%
(太平洋)				
尻 労	447kg	22%	15,457kg	58%

○ウスメバル (全漁法・5月1～5日)

(日本海)	今回	前回比	漁期累計 (4月～)	去年同期比
小 泊	139kg	33%	6,768kg	143%
(津軽海峡)				
三 厩	20kg	37%	566kg	49%

○タイ (全漁法・5月1～5日)

(日本海)	今回	前回比	漁期累計 (4月～)	去年同期比
小 泊	673kg	46%	2,654kg	630%
鰺ヶ沢	11kg	21%	880kg	200%
大 戸 瀬	113kg	8669%	139kg	212%
深 浦	681kg	13620%	691kg	-
沢 辺	245kg	-	256kg	2129%

沿岸各地の水温

日本海 11℃台
陸奥湾 8～10℃台

今期は各地で昇温し、平均前回差は+0.5度となりました。

昨年と比べると日本海で-0.02度、津軽海峡で-0.5度、陸奥湾で-0.4度、太平洋で+0.4度となり、平均昨年差は-0.2度でした。

平年と比べると日本海と津軽海峡で平年並み、陸奥湾でやや低め、太平洋がやや高めとなり、平均昨年差は-0.01度で、平年並みに推移しています。

◎試験船情報

●試験船東奥丸は9日から日本海の沖合い定線観測を行います。その後は日本海のいか類漁場調査を行う予定です。

●試験船青鵬丸は来週、日本海で高層魚礁調査を行います。

◎平成16年の青森県漁獲統計(5)

「ほたて貝の水揚げ額が増加、やりいかは減少」

漁獲金額が最も多かったのは、「するめいか」の212億4,600万円（構成比35.1％）で、「ほたて貝」130億5,678万円（21.5％）、「あかいか」55億0,911万円（9.1％）、「まぐろ」18億4,199万円（3.％）、「さけ」16億0,249万円（2.6％）、「かれい類」13億7,560万円（2.3％）、「やりいか」12億8,932万円（2.1％）の順となっている。これを前年と比較すると、漁獲金額が増加したのは「ほたて貝」39億2,511万円（対前年増減率43.0％）、「するめいか」37億5,101万円（21.4％）、「さば」8億5,720万円（254.0％）、「まぐろ」7億4,778万円（68.3％）、「さけ」7億4,601万円（87.1％）となっている。

一方、漁獲金額が減少したのは「やりいか」11億8,116万円（△47.8％）、「あかいか」2億7,190万円（△4.7％）、「いわし類」1億4,455万円（△32.5％）、「うに」1億4,103万円（△15.3％）などとなっている。

（資料：平成16年青森県海面漁業に関する調査結果書（属地調査年報）青森県農林水産部）

◎青森県海面漁業漁獲状況調査月報（平成17年1月分）の概要

○1月の漁獲数量は12,511トン、漁獲金額は32億0,574万円で前年同月比は数量で93.4％、金額で98.7％となった。

○あかいかは5,431トン（対前年同月比61.7％）、5億2,840万円（対前年同月比68.2％）

○するめいかは2,154トン（対前年同月比676.3％）、6億0,232万円（対前年同月比692.1％）

○ほたてがい（成貝）は1,599トン（対前年同月比259.1％）、2億9,883万円（対前年同月比298.3％）

(5月1日～5日)

津軽海峡 10～11℃台
太平洋 9～11℃台

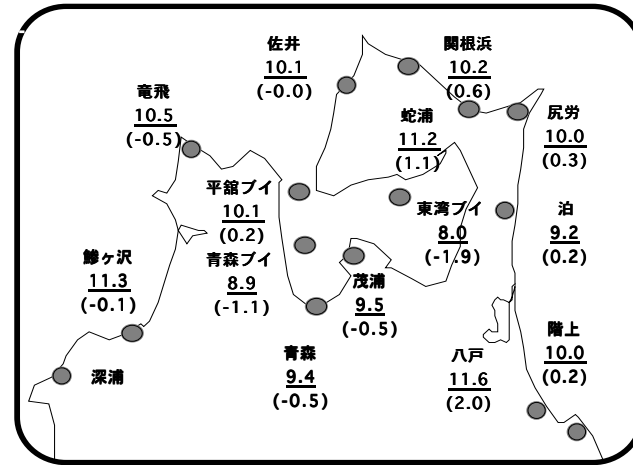


図 定地水温 (5月1～5日)
平均値 (平年差) ブイ1m

	水温	平年差	昨年差	前回差
深浦				
鯉ヶ沢	11.3	-0.1	-0.0	+0.7
竜飛	10.5	-0.5	-2.2	+0.4
佐井	10.1	-0.0	-0.2	-0.0
青森	9.4	-0.5	-0.6	+0.9
蛇浦	11.2	+1.1	-0.2	+0.4
関根浜	10.2	+0.6	+0.5	+0.5
尻労	10.0	+0.3	-0.4	+0.0
泊	9.2	+0.2	+0.2	+0.1
八戸	11.6	+2.0	+2.0	+1.2
階上	10.0	+0.2	-0.0	+0.7
茂浦	9.5	-0.5	-0.5	+0.4
平館ブイ	10.1	+0.2	+0.8	+0.6
青森ブイ	8.9	-1.1	-0.4	+1.0
東湾ブイ	8.0	-1.9	-1.2	+0.7
平均	10.0	-0.0	-0.2	+0.5

太平洋の海況

今回は水温図がありませんでした。

日本海の海況

今回は水温図がありませんでした。

◎日本海のスルメイカ漁業の現状と見通し

現在、日本海におけるスルメイカの主漁場は対馬諸島から隠岐諸島にかけて形成され、ようやく福井県越前岬周辺に漁場が形成されるようになりました。

この地域の中から境港における2月上旬から4月下旬にかけて旬別の漁獲量を下図左に示します。折れ線で示した1隻1航海当りの漁獲量は2月から3月にかけては同じように減少傾向を示したものの、今年度は4月に増加し、かなりまとまった水揚げとなりました。

また、下図右に示した4月11日から27日の当センターの試験船調査結果では、島根県沖と能登半島周辺で釣果が見られましたが、水温が高くなる西方ほど魚体が大きくなる傾向が見られました。

水温図を見ると冷水の勢力が強く、暖流が沿岸寄りに北上するとともに、水温上昇が昨年より遅れている状況にあり、スルメイカの回遊も遅れているものと考えられました。

以上のことから、ウオダス1410号で報告した日本海スルメイカ長期予報の「来遊量は近年平均より少なく、昨年と同水準」ということと併せて、**短期的な見通しとして、「来遊は各地で昨年より1週間から半月程度遅れ、漁場形成は昨年並み」と考えられます。**

